

| | | |
|-------|--|--|
| 発明の名称 | 遺伝子変異を有するポリヌクレオチド配列の簡便検出法 (WO2018/020831) | |
| 学内発明者 | 栞原 正靖(元理工学府) | |
| 技術分野 | 遺伝子変異検出法 | IP28-012 |
| 発明の概要 | 疾患に関連する遺伝子変異が数多く見いだされており、遺伝子変異を解析して疾患のかかりやすさを予測する遺伝子検査や、治療方法を遺伝子変異の種類によって変えたりする医療が注目されている。本発明は、遺伝子変異を含む標的ポリヌクレオチドを用い、該遺伝子多型を含む領域にプライマーを設計することにより、増幅の有無によって遺伝子変異のタイプや有無を効率的に判断できる。 | |
| 説明図 | <p>10:一本鎖環状 DNA、11:標的ポリヌクレオチド、12:オリゴヌクレオチドプライマー、13:増副産物(伸長産物)、101:第1の領域に相補的な配列、102:プライマー結合配列、103:グアニン四重鎖形成配列に相補的な配列、104:グアニン四重鎖を含む配列、105:グアニン四重鎖検出試薬、111:第一の領域、112:第2の領域、121:第2の領域に相補的な配列、122:プライマー結合領域に相補的な配列</p> | 標的ポリヌクレオチド11の遺伝子変異のタイプがプライマー102に設定した塩基のタイプと一致するとき、増幅反応が起こり検出試薬105で検出されるが、一致しない時は増幅反応がほとんど起こらず、検出試薬で検出されない。 |
| ポイント | 昇温・降温などの温度サイクルを必要とする PCR 法ではなく、一定温度で反応が進行する RCA 法を用いるため、簡易検出法への応用が可能であり、遺伝子診断等の用途に有用である。 | |

| | | |
|-------|---|--------------------------------|
| 発明の名称 | マクロファージ活性化剤並びにその製造方法及びスクリーニング方法 (特許第 4224586 号 米国特許 US7449301) | |
| 学内発明者 | 的崎 尚(元生体調節研究所) 大西 浩史(生体調節研究所) | |
| 技術分野 | 抗ウイルス剤、抗菌剤、抗癌剤 | 知財 13 号 IPF16-004US |
| 発明の概要 | SIRPβ の細胞外領域を認識する抗体を取得し、該抗体を薬学的に許容されうる担体と配合することにより、新規なマクロファージ活性化剤を製造する。 | |
| 説明図 | | SIRPβ によるマクロファージ活性化のメカニズムを示す図。 |
| ポイント | マクロファージ活性化剤を使用することにより、マクロファージを効率的に活性化することができる。マクロファージの活性化により、細胞性免疫を誘導することもできるため、本発明のマクロファージ活性化剤は抗ウイルス剤、抗菌剤、抗癌剤などとして有効に使用することができる。 | |